

国見町埋蔵文化財速報 2003.03



多比良地区園場整備関係

十園遺跡の発掘調査



遺跡上空から雲仙岳をのぞむ
(手前が北)

2002年度の調査

長崎県国見町教育委員会

☆☆☆ 発刊に当たって ☆☆☆

○本冊子は国見町多比良所在の十園遺跡に関する簡易な解説を目的としています。

○内容は平成12年度から行っている圃場整備事業に伴う十園遺跡発掘調査の成果です。

○本冊子に関する問い合わせは国見町教育委員会(TEL:0957-78-1100)までお願いします。

じゅう ゾの い セキ はつ くつ り ゆう
十園遺跡発掘の理由

★国見町には百花台遺跡のほかにも、皆さん周りにたくさんの重要な遺跡があります。今回圃場整備事業に伴い遺跡の一部が失われ、現地に保存できなくなるため、国見町では十園遺跡の発掘を行い、遺跡の内容を記録しました。その結果、およそ2千年前にあたる弥生時代の環濠集落が発見され、当時の多比良地区にどのような人々の集落があったのか、次第に明らかになってきました。

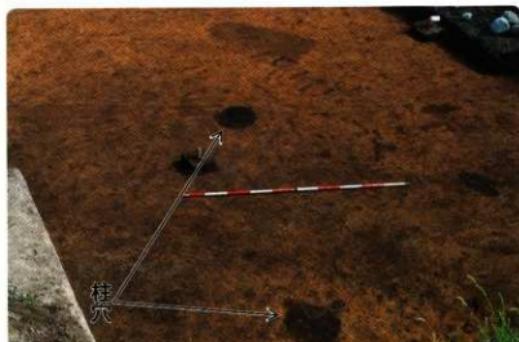
圃場整備:水田を広くして、耕作しやすくなるための工事。

キーワードは環濠集落、濠、竪穴住居、製鉄、かなくそです。

はつ くつ ちょう さ き ほん
発掘調査の基本

★右の写真は、建物などに使われていた柱穴を発見した直後の写真です。周りの土と色が違っている部分がいくつか見えますよね。それが丸くて、同じ間隔で並んでいれば、まず柱だと考えられます。

★右の写真は、柱穴を半分に切り取った様子です。柱が差し込まれていた部分と柱周りに入れ込まれた土とに色の違いが見られます。この柱穴は直径約10センチの丸材を使用していたことが考えられます。



キーワード1

環濠集落

☆右の写真は、十園遺跡の上空からの写真です。赤いラインは遺跡のおおよその広がりです。面積は約1万5千平方㍍におよぶ規模の大きな遺跡です。およそ2千年前の中生時代の環濠集落が遺跡の北側半分（手前）に見つかりました。



☆下の写真が、環濠集落の上空写真です。大きな赤い円が環濠集落のおおよその範囲です。環濠集落の大きさは約6千平方㍍の広さがあり、小学校のグラウンドほどある敷地の周りに濠が掘られています。その内側にある小さな丸い円は、当時の一般的な住まいと考えられている堅穴住居です。



キーワード2

濠をもつ集落=環濠集落

★下の2枚の写真は、集落のまわりに掘られた濠の様子です。しかし、濠は防御や戦争などの目的で集落のまわりに掘られるものです。しかし、戦争が終わリ濠が利用されなくなったら、濠は必要なくなるために、使えなくなったりいろいろな生活の道具（不用品・ゴミ）を濠の中に捨てているようです。そのため、濠から出土した土器は完全な形に復元できるものはなかなか見つかりませんでした。土器だけでなく、戦争で使用したと思われる鉄の矢じりも出土しました。



濠から出土した土器の1つ
完全な形に復元できない



鉄の矢じりの出土状態



出土した矢じり
(全長7cm)



☆右の写真は、濠に投げ込まれた土器や石の様子です。
 土器の上に石が、石の上に土器がのっています。足の踏み場もないほどの大
 量の土器が出士しました。
 土よりも土器の量が多いほどです。



☆左の写真は、上の濠の断面です。下に行くほどせ
 まくなるために「V」字濠と呼ばれます。この濠では、
 右上の写真のように多くの土器や石が出士しました。
 残っている部分で深さは1メトル50センチです。

☆右の写真も濠の断面です。
 こちらの方が、上の濠よりも狭く深く掘られています。
 濠の底の幅はわずか20センチ、
 深さは約1メトル50センチです。こちらの濠からは土器の出土は少なくて、小さな破片ばかりが出士しています。



キーワード3

竪穴住居跡

やよいじだい いっぽんてきす
★弥生時代の一般的な住まいとして利用された竪穴
じゅうきょあと むね あま
住居跡2棟が見つかりました。右の住居跡は上から
みぎ じゅうきょあと うえ
見るときほぼ丸い形をして
じめんほ
いて、地面を掘りくぼめて
うちがわ はしらた つちかべ
その内側に柱を立て、土壁
りょうやね
を利用し屋根をかぶせる簡単な構造の建物です。



特に国見町では直径が10mを超える巨大な竪穴住居跡が多く発見されています。



じゅうきょのいせき じゅうきょあと ちよつけい
十園遺跡の住居跡 直径11メートル



くにみちょうひがしさと つくだいせき じゅうきょあと ちよつけい
国見町 東里の佃遺跡の住居跡 直径15メートル

★右の写真も、弥生時代（2千年前）の竪穴住居跡です。一辺が6メートルほどの正方形の間取りです。大量の土器片が出でています。



★左の写真は、竪穴住居跡から出土した土器です。赤く塗られた土器が大量に出土しています。器に色が塗られることは珍しく、赤い色になんらかの特別な意味があったのでしょうか？

★右の写真は、およそ五百年前の古墳時代の竪穴住居跡です。一辺が4メートルほどの正方形の間取りです。焼け落ちた屋根や柱が黒い炭となって残っていました。



キーワード4

製鉄・かなくそ

こんかい　じゅうぞの　い　せきちょう　さ　とくひつ
☆今回の十園遺跡調査で特筆すべきは、弥生時代に製鉄をおこなっていたことです。

ほり　やよい　どき
それは濠から弥生土器とともに大量のかなくそが出土したこ

とによります。

てつ　りょう　にほん　やよい　じだい
鉄の利用は日本では弥生時代からといわれていますが、これまで弥生時代の製鉄に関する考古学的な発見はありません。鐵劍・鐵矛・鐵の矢じりなどの製品は、よくお墓などの副葬品として発見されています。しかし、製鉄に関する発見が少ないために、弥生時代に日本国内で製鉄は行われていなかったという意見もあるようです。

こんかい　じゅうぞの　い　せき　かんごう　しゅううらぐ　ほり　たいりょう　どき　おお　はつ
今回、十園遺跡で環濠集落の濠の中から大量の土器とともに多くのかなくそが発見されたことは、学問的にも大きな成果となりそうです。



かなくそ：鐵を作るときに出て来るカス（鐵鋸）



かなくそが出土した濠から鐵のやじりも出土しました。矢印部分

いせきのはづ 遺跡の保存

ちょつけい 直径11㍍を超える大型
おおがた
の堅穴住居跡を埋め戻す
たてあなじゅうきょあと う もど
のは大変！機械の助けをか
たり、砂を近くまで運んで、
ていねい はしらあな すな い
丁寧に柱穴に砂を入れて
いきます。



こうじけいかく へんこう ★工事計画の変更な

いせき
どによっても遺跡の
はかい まぬが ぶぶん
破壊が免れない部分
ちゅうしん はくつちょう
を中心に行き発掘調査
おこな
を行っています。その
ため遺跡の大部分は
もりど ほぞうじ
盛土などの保存工事
によってわれわれの
しそん のこ
子孫のために残され
るようにしています。

おとな にん じゅうき
大人4人 重機(ユンボ)1台
すなやく りっぽう
砂約20立方メートル
はんにち
半日かけての作業でした。
★重機も鉄のスコップも
まだ無い時代に、こんなに
おお あか あな ほ
大きな深い穴を掘るのは大
へん 変だったでしょうね！



いせき　けんがく 遺跡の見学　説明会

2002年11月3日午後より

きょういくちょう
教育長のあいさつ▶



やよいじだい　す
弥生時代の住まい
ひろ
です。広さはおよそ
35坪。(115.5m²)
なんにこ
ひと　す
何人の人が住んでいたんでしょうか？

じゅうぞの　いせき　はつくつちょう　さ　はっけん
十園遺跡の発掘調査で発見された
いぶつ　ほり　たてあなじゅうきょあと　げん
遺物と濠・竪穴住居跡についての現
ちせつめいかい　おこな　あめ　なか　みな
地説明会を行いました。雨の中、皆さ
ねっしん　やよいじだい　せんねんきえ　ようす
ん熱心に弥生時代（2千年前）の様子
しつもん　はつくつちょう　さ　せい
について質問したり、発掘調査の成
みみ　かたむ
果についてじーっと耳を傾けていました。

ほり　しゃうらう　まわ
この濠が集落の周りにぐるりと掘られ
ひとびと　せいづつ　まも
て、人々の生活を守っていました。



遺跡の見学会

2002年11月6日、十園遺跡の発掘現場に小学生が見学校に来ました。多比良小学校の高学年の皆さんで、熱心に2千年前の弥生時代の様子をメモしていました。



濠の中に入ってみたり、出土した土器を実際に自分の手で触ってみたり、遺跡の現場での貴重な体験をしました。この体験を通じて郷土を大切にする子供に育ってほしいものです。



※「がねトン」ロゴマークについては、国見町商工会より掲載許可を頂いております。

国見町遺跡地図



貴重の書簡
昭和13年5月の26日古河は連絡「私の
引退」と呼ばれています。封主は御
大蔵を御退職してしまって半蔵御殿武藏石
室を大きな湯船で御退職しており、石室内
には御座のあとが残っています。
この古河宮は昭和13年も馬鹿野所御
小室平左衛門御宿(御宿馬鹿野所御
小室平左衛門)による連絡御宿が存在し、
馬場・土蔵領などがあり出し、その時
は連絡は5本鎌町で二つで、その結果
わたして湯船が付けるとそろそろ
連絡御宿5本鎌町が古河古戸御宿に保
持ります。されば、昭和14年1月13日史
上記を付すと云ふ事です。



■ 现代热力学与工程学

地図中3番は、佐賀藤代氏・主膳丸氏の陣跡地で、
龜城本丸の二の丸御側門に接して造られています。平
成の黒門は元治元年(1864~1870)に建立された
と云われ、門内には高さ2メートルの石塔筋伝の御影堂
が2列になって約30mほど通っています。平成
5年2月10日に町の有形文化財として指定され
ています。



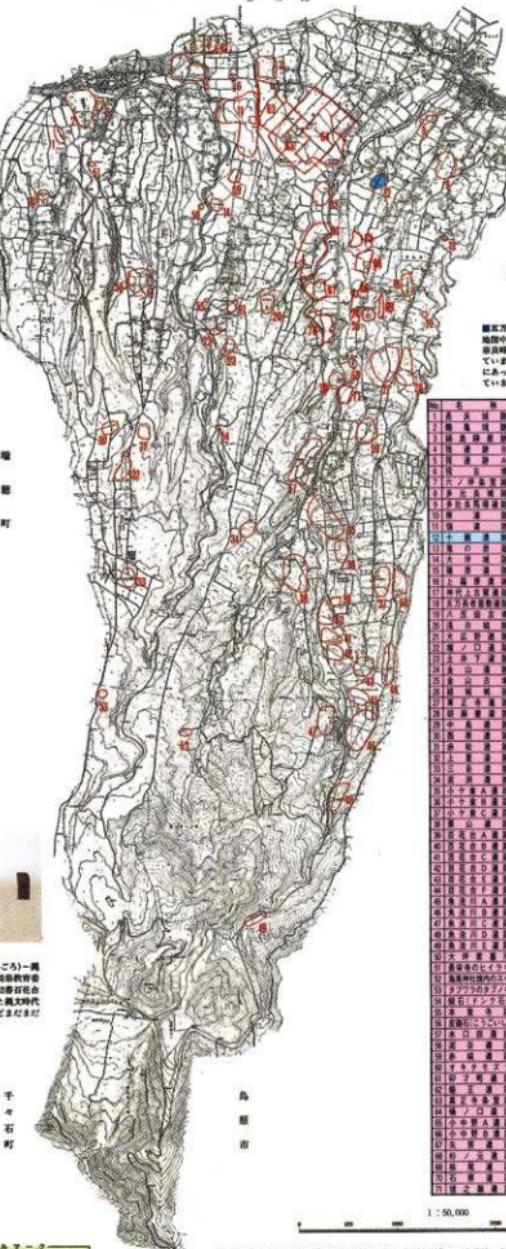
開拓祭のヒイラギ

地図中51番のヒイラギは、平成7年4月18日の両山島自然愛護協会の調査結果によると、樹冠面積3.43m²、樹高7.5m、推定年齢40年で、全國第4位のヒイラギの巨樹であります。近年やや弱りかけているように見えますが、樹木の健康状態は問題ないそうです。木本は雄株で、昭和24年5月20日に天然記念物として県の指定を受けています。



■百面古建筑与出土文物（长治佛教教育器具与斯华）

地図中9-46番の「百花台跡跡跡」は、3万年前(即石器時代の終りごろ)一萬年、後醍醐時代にかけての遺跡として全國的に知られており、高嶺寺教育委員会や同社大字などにより発掘調査が行われました。平成は42番百石D道跡から出土したもので、石器時代の手作・複数個の石器と後醍醐時代の縄文貝殻です。追跡開拓では、このような石器類や土器片などまださだ



1 : 50,000



—文化財登録シンボルマーク—

レンタルマークは、ひらげた両角の手のひらのバーン日本進路の重要な部分である手牌組みもののイメージこれを引き継ねることにより、文化財という技術の伝承を、来年にはわたり本道に伝承していくという愛護精神をのぞます。

★この施設地図は、平成16年3月現在のもので、まだまた多くの未発見、未周知の道筋が存在しています。
★この施設地図は、平成6年3月当時の教育委員会発行の「接続施設地図」を基礎として、その後発見された施設および町内の文化財等を付加され、既存町会委員会が改訂したものです。

●遺跡の範囲は図上に赤で示しましたが、おおよその範囲を示すもので、図上やその周囲も遺跡と考る場合もあります。また、図上に赤で示していない範囲、外郭的な壁や門・石垣等によってその地域において文化財を認める土地として広く認められている施設についても遺跡として取り扱われます。